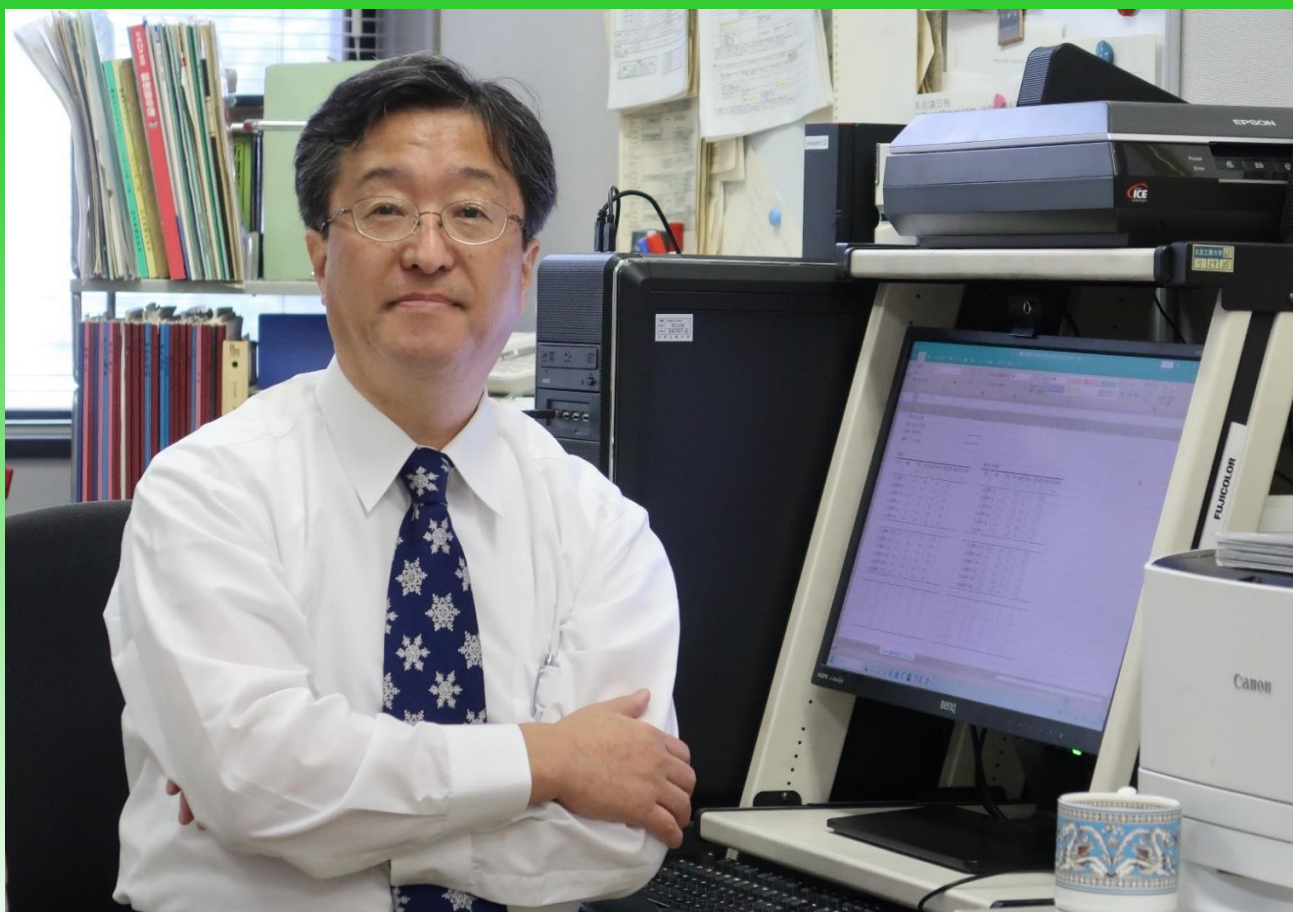


社会環境系



地域に向けてひとこと

マイナス70℃までの低温環境下での製品開発実験を実施したい方、雪・氷・寒さについて技術相談をしたい方のご連絡ください。私自身で解決できない場合には、国内で最適と思われる方を紹介します。

亀田 貴雄

Kameda Takao
教授 ・ 博士（理学）



地域に向けてできること

訪問講義

小中
学校

高校

一般
企業

- ・ 南極の氷からわかる過去72万年間の気候環境変動および最近の地球温暖化（90分程度が望ましい）
- ・ 屈斜路湖と摩周湖の結氷について ―地球温暖化の影響―（50～60分程度）

研究室見学

小中
学校

高校

一般
企業

科学・ものづくり教室

小中
学校

高校

一般
企業

技術相談

雪、氷、寒さについての技術相談

研究テーマ

低温環境（-10～-70℃）での製品開発実験指導および雪、氷、寒さについての技術相談

研究分野

●環境

●その他

研究キーワード

雪、氷、湖の結氷、積雪深の長期変化、南極氷床、氷河

SDGs



概要

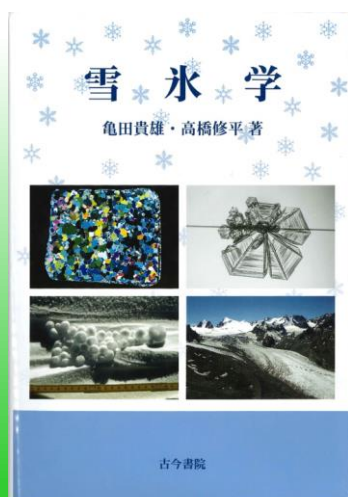
雪氷学の研究を実施するために、私はこれまで低温室（-10℃、-20℃）および超低温冷凍ボックス（L113cm×W50cm×H63cm）を使ってきました。これらの低温環境を用いることで、製品開発実験を実施することができます。必要があれば、低温室実験の実施方法についても相談に乗ります。

雪、氷、寒さは積雪寒冷地域に位置する北海道の自然環境の大きな特徴であるため、積雪寒冷地域で用いる様々な製品を開発する際には大いに考慮すべき点です。私はこれまでに、南極氷床で掘削された氷床コア氷を用いた過去の気候復元に関する研究、湖の結氷に関する研究、日本の積雪深の長期変動などについて、雪・氷・寒さをキーワードとして研究を実施してきました。大学では学部2年の学生を対象として雪氷学の講義を担当し、そこでの教科書として『雪氷学』（著者：亀田貴雄、高橋修平）を一般書として2017年8月に刊行しました。

そのため、雪・氷・寒さについて不明な点がある場合はまず、『雪氷学』を参照していただくことを希望します。『雪氷学』でよくわからない点、『雪氷学』に掲載されていない点などで、雪・氷・寒さについてご不明な点があれば、技術相談に乗ります。お気軽にお問い合わせください。

アピールポイント

- ・低温室（-10℃、-20℃）があるので、低温環境下での製品試験が実施可能です。
- ・超低温冷凍ボックスがあるので、-70℃までの低温環境での試験も可能です。
- ・雪、氷、寒さについて、不明点があればご相談ください。
- ・-10℃から-70℃の低温環境下での製品開発実験の支援など
- ・積雪寒冷地で使用される製品の開発などで、雪・氷・寒さが問題を引き起こす場合



雪氷学(亀田貴雄・高橋修平著)